令和５年度　第３回田原市総合計画審議会：議事録

日　　時	令和５年５月 24 日(水)　10 時 00 分～12 時 10 分
場　　所	田原市役所　第１委員会室（北庁舎３階）
出 席 者	委員（敬称略、順不同） 戸田 敏行　愛知大学地域政策学部 教授 髙崎 佐智江　田原市教育委員会 委員 山本 貢司　田原市農業委員会 会長 本田 雅彦　田原市地域コミュニティ連合会 会長 河合 利則　田原市商工会 会長 森下 直樹　渥美商工会 会長 川口 正康　愛知県漁業協同組合連合会東三河支部 支部長 山田 俊郎　田原臨海企業懇話会 会長 小林 篤史　田原市消防団 団長 大和 義弘　田原市土地改良区 理事長 山田 貴三　田原市社会福祉協議会 会長 長神 隆士　田原市老人クラブ連合会 会長 鈴木 嘉希津　一般社団法人田原青年会議所 理事長 吉田 昌弘　愛知厚生連渥美病院 病院長 石黒 功　渥美半島観光ビューロー 会長 渡会 美加子　ＮＰＯ法人たはら国際交流協会 理事 稲垣 瑞恵　愛知県農村生活アドバイザー協会田原支部 前会長 杉浦 操　田原市赤十字奉仕団 委員長 長島 敬　田原金融協会 会長 太田 文子　田原市民生児童委員協議会 副会長 佐藤 青子　田原市小中学校ＰＴＡ連絡協議会 家庭教育委員 浅野 純一郎　豊橋技術科学大学 建築・都市システム学系 教授
欠 席 者	鈴木 照彦　愛知みなみ農業協同組合 代表理事組合長 中川 鈴江　田原市更生保護女性会 会長
傍 聴 者	なし
顧　　問	山本 浩史
事 務 局	企画部 部長 企画部 企画調整監 企画部 次長 企画課　４名 策定支援委託業者　１名

議　　題	１　会長あいさつ ２　報告事項 ⑴ 委員等の異動について【資料１】 ⑵ 第２回審議会の会議録について【資料２】 ３　議題 ⑴ 序論・基本構想（原案）について【資料３、４】 ４　その他
配布資料	会議次第 資料１　田原市総合計画審議会名簿 資料２　第２回審議会会議録 資料３　第２次田原市総合計画_序論・基本構想（原案） 資料４　田原市の人口に関する見通し

１　会長あいさつ

戸田会長	本日は大変お忙しい中ご参集いただき感謝申し上げる。 本日の出席委員は審議会条例第７条第２項に定める過半数を上回っているので、本会議は成立している。 それでは、ただ今から第３回総合計画審議会を開会する。

２　報告事項

⑴ 委員等の異動について【資料１】

⑵ 第２回審議会の会議録について【資料２】

戸田会長	それでは、次第２の報告事項の資料１について、事務局の説明を求める。
事務局	（資料説明）資料１
戸田会長	それでは、新しく委員になった方々からあいさつをいただきたい。 田原市地域コミュニティ連合会の本田委員には、職務代理者をお願いしたい。
各委員	（新任委員あいさつ）
戸田会長	それでは、次第２の報告事項の資料２について、事務局の説明を求める。
事務局	（資料説明）資料２
戸田会長	５月 31 日までに会議録の確認をお願いしたい。

３　議題

⑴ 序論・基本構想（原案）について【資料３、４】

戸田会長	それでは、議題に入る。まず、「序論・基本構想（原案）について」、事務局の説明を求める。
事務局	（資料説明）資料３　資料４
戸田会長	第１次計画からいくつか変更になっている。指標系統は、今回は人口でとっているが、かなり縮小する方向となっている。10 年間で 5,000 人程度縮小することを前提した内容となっており、様々な面に波及する。政策的に挙げられていること、ポイントを説明いただいた。まだまだ策定の途上であり、これから変化することも十分あるとは思うが、何かご質問等あれば発言をお願いする。
河合委員	２点ある。まず基本構想の 27 ページ、観測指標で市民の意識調査がある。幸福感・住みやすさのどちらも極端な変化はないが、それでも県内で本市のこの５年の人口減少率が、最大であることを考えると、今のこの数字だけでは不安である。 もう１点は、都市計画、市街化の関係についてである。今までは「コンパクトシティ」という言葉がよく出てきていた。住民のアンケートをとると、豊かな自然を求める気持ちと都市型サービスを求める２点が、田原市の大きな特徴である。豊かさも認めているが、都市型サービスも求めている。「コンパクトシティ」の問題を避けては、現実的には難しい。「コンパクトシティ」は中心に人が住む。田原市の場合は、半分以上の方が調整区域に住んでおり、ある程度不便でもいいというのであればそれはそれでよい。しかし、若い人が離れていく根本的原因に都市型サービスの不足がある。また、結婚で田原市に来た方も、パートという形態であれば働きたい方もいると思う。いずれにしろ、人口集積をさせておかないと、教育の問題やクリエイティブな職業の不足といった問題が出てくるだろう。調整区域を無くすということはかなり暴論になるが、今後 50 年、100 年という将来を見据える中で人口を増やすとすると、人がまちの中心に集まり、仕事と居住する場所を何らかのインセンティブの中で集める施策をどこかに盛り込まないと、表面上の言葉だけの対策ではかなり難しいように思う。
事務局	観測指標で「田原は住みやすい」という結果が出ているが、若年層の転出が多い。特に、進学を機会に故郷を離れ戻ってこないことが極端な数値に現れている。 田原市では数年前より「ふるさと教育」を進めている。「ふるさと教育」は「ここに住め」というものではなく、「できれば住んでほしい」「この場を離れてもふるさとに目を向けてもらいたい」という教育である。もう少しダイナミックにＵＩＪターンに力を入れていかないと、戻ってくることがないと思う。せっかく市民が「住みやすい」と言っているので、そこを強みにし、コロナ禍でテレワークも進み、田原に住みながら仕事をすることが可能となっているため、ダイナミックに進める必要があると思う。
事務局	補足する。人口に関して、市としても最大の課題と捉えている。この基本構想の状況を踏まえ、しっかりと基本計画の中で対策は検討していく。

	将来都市構造は言われるとおり、「立地適正化計画」ができ、都市機能は市街化区域に集約する方向性になっている。「コンパクトシティ」という言葉を入れるかは今後検討する。今後の都市計画を考えた時、いたずらに市街地を広げてしまうと上下水道や道路等のインフラにかかる費用が莫大となっていく可能性があるため、ある程度都市インフラを集約していく方向である。 一方で、田原市は農村集落でもある。農業を生業にしている方にとっては、そちらに住む方が仕事をする上ではやりやすいこともある。農村集落は農村集落として住みやすい、また働きやすい環境づくりをしていく必要がある。両面を並行してやっていく必要があると思っている。 ただ、人口の配分は難しい問題がある。単純に農村部から都心部に移動するのではなく、年齢を踏まえて移動してもらうなど、いろいろな手段を検討してやっていく必要がある。 定住人口の増加に関して、外から人を持ってくることは簡単なことではない。現在田原市では「サーフタウン構想」といって、サーファー等アウトドアスポーツに興味のある人に住んでもらう仕掛けをしている。それだけではなく、臨海部における企業誘致、コロナ禍で増えたリモートで働ける環境、愛知県で力を入れている「スタートアップ」、ＩＴを使った起業等への支援も必要になってくるのではないか。できるだけ田原で若い方が働けるようなことを考えていければと思う。
戸田会長	観測指標とは、ＫＰＩとは別につくるのか。
事務局	ＫＰＩは基本計画の中で個別に設定している。大きな観点として捉えている。
戸田会長	目標として指標を出しているのか、プロセスをチェックするために指標を出しているのか、使い方が違うので留意してもらいたい。 併せて、戦略が前回計画と随分違う。前回は人口を増やしていこう、増えるだろうという設定であったが、今回は減ることが前提で、どう維持するかということになっているので、観測指標自体も戦略的に見たほうがよい。
山本委員	人口の流出が多いという点について。一つの方法として、昭和 43 年「土地計画法」において、昭和 45 年 11 月以前の建物は建て替えができ、以降リフォームはできるが建て替えはできない、ということにより多少の流出は防げるかと思うが、その点はいかがか。
事務局	既存の居住しているところでの建て替えは可能だと思う。ただ、新しい方が住む場合に条件が出てくる、ということか。
山本委員	昭和 43 年「土地計画法」を確認いただきたい。 もう一点、農業委員としての意見である。４月に農地法が変わり、下限面積が撤廃となった。これまでは農地を取得するには「５反要件」があり、土地が５反なければいけなかった。これが撤廃となり、付帯条件として「150 日働く」「その土地を効率的に使う」「地域との協調」がある。それをクリアすれば、誰でも農地を持てるということになった。耕作放棄地が 550ha あるが、多少それに結びつくといいと思う。農業委員会としては、新規就農してくれる方がたくさん入っても

	らえたらいいと思っている。
事務局	農地法の改正については発言のとおりである。田原市の魅力の一つとして、農業がある。一方で、現在農業をしている方にとっては、気軽に農地を持ったものの耕作放棄地になると病気や害虫が発生する心配がある。そこで農業委員と相談しながら、どこであれば土地を提供できるか、考える必要がある。 また、田原市の転入を増加させる上で、農地付きの住宅の販売、家庭菜園が楽しめるということは一つの売りになるので、今後政策を進める上ではしっかりと検討していきたい。
浅野委員	河合委員の発言のとおり、「コンパクトシティ」という言葉は残さなければいけない。国の施策でかなり重点的にやることは決まっているので、この言葉がないと市の姿勢が疑われるのではないか。思うに、事務局発言のとおり田原市は市街化調整区域がほとんどで、縮小する市街地がそもそも少なくもともとコンパクトであり、コンパクトシティ施策を「立地適正化計画」に沿ってやることに魅力を感じていないのではないか。しかし、国の施策としてある以上、それを使ってやるとなると、田原型のモデルを自分達で作るくらいの熱意を持ってやらなければできない。「現状、魅力がないから」と無視するスタンスで行くのか、田原の形を逆手にとって促進するなら市街化調整区域を含めて拠点をつくるか、それらを含めて言葉をどうするかである。 先ほど農業委員の方の発言に、開発許可制度がバリアになって人が来ないのではないかということであったが、私が知るところ、調整区域の規制緩和をやって成功しているところはあまりない。むしろ、調整区域の中の緩和的手段を上手く使った方が上手くいく感じがしている。 今回の人口のところで（資料４）人口の６ページに詳細な数値が出ている。現状の平成 25～平成 29 年の合計特殊出生率 1.64 を算出した期間より、出生数が平成 30 年以降減っている。７ページはデータが異なるが、令和３年の値も出ており、さらに減っている。コロナの影響もあり、実際は相当減っているだろう。市として予想する縮小の人口目標もかなり頑張った数字だと思うが、現実にはさらに厳しいスタートラインに立っていることを認識する必要がある。 また、６ページの 20～39 歳の女性人口も激減しているが、出生率にするとそれほど悲惨なことでもないかもしれない。いずれにしろ、まち・ひと・しごとを始めてこのあたりの数字がどう変わっているのか、人口問題研究所の数字が合っていなくても簡単に計算できるので、分析したほうがいいと思う。 （資料３）32 ページの「重点プロジェクト(案)」を見ると、いずれも担当課が曖昧で、複数の課が相乗りの課題が挙がっている。「市役所を挙げてやる」ということかもしれないが、悪く言うと、適当に出された結果を持ち寄って「こうなりました」ということ。そうならないためにも、やり方や指令塔をしっかり決めてやらないと、いい方向に行かない気がする。
戸田会長	人口移動のデータも平成 27 年から令和２年とあわせて、平成 22 年から平成 27

	年の変化も出ているので、よく見てもらう必要がある。 土地利用についても、指摘があった点を踏まえてもらいたい。 プロジェクトについてはこれからだが、念頭に置いておいてほしい。
事務局（企画調整監）	今年度から国土交通省をやめて田原市へ来た。 コンパクトシティについて補足する。国土交通省でもコンパクトシティだけではなく、基本的には「コンパクトシティ＋ネットワーク」としている。地域をコンパクトシティ化するだけでなく、しっかりとした移動手段、ネットワークをつなぐことで利用可能になるまちづくりをしていこうとしている。そのため、コンパクトシティだけでは少し片手落ちだと思っている。そのためには、道路ネットワーク、公共交通ネットワーク、皆さんが移動しやすいことを併せて仕組みとして取り入れることが重要だ。田原市は面積が広大であるため、市道路の維持管理だけでも相当大変だと思われる。課題はあるが、そういった視点は必要で検討していただきたい。 人口問題のことだが、子ども達が大学等で一度都会に出て行ってしまう。その後、この田原に戻ってきてもらいたいが、若者のアンケートでも「他の市域で暮らしたい」が多い。一度出ても戻ってきてもらうことが大事だと感じており、そのためにも、子ども達に田原を愛してもらう取り組みが大事だと思う。
戸田会長	目標から事業になり、ＫＰＩも出てくる。ＫＰＩが連動できて最終の目標や人口につなげて、実質的に動くようにしていかないといけない。人口は１つの数字だが、極めてリアルである。施策に結びつくようにやっていただきたい。それに向けて意見等をお願いしたい。
山田(俊)委員	今、産業構造が変化してきている。田原の臨海部においてバイオマスの立地も進んでいる。この 10 年間でもここで働く人が増え、定住しているのではないか。今後、バイオマス 5 社で 200 人くらい増えるとか、新たな企業進出など、こうした成長を踏まえて、どれだけ見込んでいるのか、人口増をどのように考えているのか。
事務局	今回の人口推計は、政策的な人口を見込んでおらず、これまでの人口移動率を踏まえて行っている。これまでの臨海部の成長はこの数値に反映されているが、急激な人口の増加とはなっていない。
山田(俊)委員	この 10 年間でかなり企業進出もあるのではないか。
事務局	これまで５年間の人口移動率の平均をとって見込んでいるので、推計結果には５年間の臨海部における人口の増減は含まれている、という考え方である。
山田(俊)委員	「かなり減る」ということを食い止めるための手段として、可能性を見ていかないといけないのではないか。
戸田会長	数字は大枠で出ているが、その中身を詰めていかなければならない。その中には臨海部の人口もあり、それをどうすればこうなるのか、ということである。中山間の過疎地は、集落ごとの世帯や仕事をどうするかミクロで見ていかないとわ

	からないが、人口減少下では田原市でもミクロからの計画作りがいる。
山田(俊)委員	まだ売れない土地が 100ha あると言われており、積極的に売ろうと努力している。地元の魅力を出して、ここに住んでもらう努力をしないといけない。また、産業経済についての記述が少ないように感じる。
稲垣委員	若い人達のアンケートの中で、「レジャー・遊び場がない」という項目がある。先日のニュースで図書館の話題があった。昔のイメージと違って、今の図書館は静かに本を読むだけの場所ではなく、ある図書館ではキッチンが併設されていて料理ができる、ボルダリングができるなど、これまでの常識を覆すような図書館が続々とできている。私の住んでいる地域には渥美の図書館があるが、開館した時から気になっていたがことがある。２階の学習室は、ドアを閉めると密室状態になる。コロナ禍の影響でドアは開放されているが、学習をするところなのに密室で、使いたい人がドアを開けづらい状態である。例えば、豊橋市の中央図書館の学習スペースは来館者が丸見えのところにある。田原の中央図書館も学習したい人が座れるスペースが館内あちこちにあり、他の来館者からも見えて、本人の励みにもなる。渥美の学習スペースも、他の来館者から見える場所にしてほしい。今は大人も学びの時代であるため、図書館の隣にある福江高校の生徒だけでなく、もっといろいろな人が使えるスペースに改装していただきたい。 もう一点、空き家活用について、「ギャラリー埴」とはどのようなところか興味が出て、偶然近所の方が個展を開いていたので出かけた。隙間風が入るような古民家で、最小限の手直しだけを行っている。そこでは、東京藝術大学出身の方が、粘土による自分の制作活動をしながら滞在していた。現在は、写真家の方の個展が開かれており、そのような芸術家の方が自分の作品を創るために古民家に滞在していると聞いた。定住ではなくても、少しでも自然の良さを理解して滞在してくれる人を増やすことも良いと感じた。
鈴木(嘉)委員	先ほどの人口減少について。青年会議所でも、子ども達や若者の人口流出を防ぐということがとても大事だと考えている。どうしたら人口流出を防げるか、もしくは大人になって戻ってくるか。幼い頃の地元に対する愛着や原体験することで「いつか田原に戻りたい」と思うことがあるので、私達もそのような活動をしている。また、田原の子ども達が地元への愛着が湧くようなことを考えていくとよいと思う。
吉田委員	相変わらず医師確保はかなり困難であるが、今年度の確保状況をお伝えする。内科が消化器内科１名増員、総合診療の内科医１名増員、循環器内科は３名定員だが２名で８月に増員予定、整形が欠員だったが４月から増員されて定数になった。脳外科医が常勤１名となったが名大から１か月交替で派遣され、常勤２名体制となる。産婦人科は６月より確保できたため、２名体制になる。
石黒委員	本日は構想ということで説明があった。構想、計画、実施というプロセスだと思うが、構想は楽観的に見ることが大事だと学んできた。構想は楽観的に、計画は消極的に、そして実行は楽観的に、というメリハリが大事だという中で、基本

	構想の中でどれだけ楽観的に、俯瞰的に見ているかが非常に大事だと思う。 　先ほどからの皆さんの発言のとおり、人口の点では、過去５年間の数字よりかなり下がって厳しくなっており、計画はそれなりにチャレンジしていると思う。これは企業も同様で、企業も売り上げ・利益を上げようとするのではなく、よい商品やよいサービスを生み出すことが大事だと思う。市としても人口を増やそうとしてもそれは結果であり、中身がよくなければ人口は増えない。市の課題はたくさんあるが、課題より重要なのは強みだと思う。課題ばかりを見ているように思える。強みを伸ばすことが良いものを生み出すことにつながるので、もっと強みにフォーカスしてくことが必要ではないかと思った。
戸田会長	強みを示すことについては、ＳＷＯＴ分析などを加えてもいいかもしれない。
渡会委員	外国人登録の人数は、３月 31 日でコロナ前に戻った。今秋にも技能実習生の制度が大きく変わるため、外国人の流入・多様化が進み、取り組みも増えていくと考えている。 　統計に和暦と西暦が混在しているのがわかりにくいので、どちらかに統一してほしい。
杉浦委員	人口減少は田原市だけではなく、全国的な問題である。特に田原市は若い人達が流出することが非常に問題である。なぜ若い人達が出て行くのかを、もっと掘り下げて追求する必要があると思う。そういった人達の考えや意見を吸い上げると、「田原市に魅力がない」「色々な環境が整っていない」などが浮き彫りになる。一つの問題だけではなく、相対的にいろんな問題があると思う。交通の利便性の問題、若い人達が生活しにくい環境などを考えていく必要がある。 　（資料３）の 25 ページにある合計特殊出生率を 1.64 から 1.80 に上げることは、並み大抵なことではない。若い人達が残れば出生率が上がることにつながるとは思うが、結婚しなければ出生率は上がらないので、相対的なことを考えて問題に取り組む必要があると考える。
長島委員	私は４月に東京から引っ越して来た。単身赴任で、居住地をどうするか考えた。周りを見渡しても関東に住んでいる人達はほとんど車を所有していない。私も田原に住みたかったが、交通手段がないので豊橋駅前に住むことになった。今は車を持たずにカー・シェア、シェア・サイクリングがあり、それが田原にあれば私も田原に住みたかった。アプリを使って田原市のカー・シェアの状況を見たら１台であり、おそらく使えないだろうと思った。外から入ってきた人が、車を持たずに住む方法、バス等交通手段の対策があるといいと思った。
太田委員	私達の仕事は、出生から亡くなるまでの幅広い役割である。本来であれば子ども達の出生にも関わらないといけないが、現状、ひとり住まいの高齢者の緊急避難や地元のことで手一杯である。身近な東三河圏内に親族がいる人は多いが、田原に戻って来られないのか、戻らないのか。そのあたりに原因があるのではないかと常々感じている。
佐藤委員	個人的な意見だが、将来都市構造が「車ありき」の考え方ではないか。車を持

	っていない人達にも、住みやすいまちづくりが必要ではないか。 　子どもがいる家庭では兄弟姉妹がいない家庭が割と少なく、子どもは２人、３人、４人、５人と兄弟姉妹が多い家庭が多いので、結婚していない方々がどうやって結婚するかが大事ではないか。
長神委員	（資料３）６ページに「人生１００年時代を見据えた誰もが活躍できる社会」とあるが、老人クラブ連合会では昨年に「安心安全な地域づくりの推進」と題し、文化ホールでイベントを行った。老人の健康づくり、介護予防事業、地域のささえを三本柱としてやっている。その中でも、地域福祉を充実していくことが特に大事だと感じる。 　また、新しく住む人達を受け入れる受け皿づくりを積極的に行うことが大事だと思う。子ども、親、祖父母の三世代のつながりも手薄になっている。自治会づくり、コミュニケーションづくりが大事であり、縦横の連携をとりながら地域づくりをしていくことが大事だと思う。
山田(貴)委員	健康福祉の分野について。高齢者福祉、子どもの福祉、医療について話があったが、障がい者に関する福祉の記述がない。(資料３）35 ページの「健康福祉」には「障がい者福祉の充実」という文言はあるが、「計画の前提事項」（４～６ページ）では触れられていないので、そちらにも記述があればと思う。
大和委員	大変すばらしいビジョン、意見である。先ほど、農業委員の方が「最近、耕作放棄地が増えている」と発言があったが、高齢化の進行もあるが、農業が儲からないということもある。農家の方に対しての対策等をお願いしたい。
小林委員	消防団としては、新入団員の確保が問題であり、20 代の方をメインに勧誘している。消防団が足かせになるといけないので、魅力ある消防団を目指し、今後訓練の見直しや処遇の改善をしていきたい。
川口委員	水産業の担い手について。資源があれば、お金になれば担い手はすぐ来る。 　杉浦委員の発言にもあったとおり、結婚しない、産まないは、子どもが減るに決まっている。ある程度若い年代が増えて出生が増えないと、人口増加は無理だと思う。
森下委員	渥美商工会としては渥美地区、渥美地区と言えば伊良湖地区の観光のさらなる開発と福江市街地の再開発をしっかりやることを希望している。これが夢のあるまちづくりであり、第一歩だと考え、人口増にもつながるのではないかと思っている。 　観光について、春に菜の花まつりなど多くのイベントを開催し、全国から多くの集客があり大変嬉しく思った。その際、伊良湖地区の道路は大渋滞を起こしてしまうので、道路や駐車場の整備はしっかりやらなければいけないと思う。 　温泉事業も少しずつではあるが活発化している。また、６月４日には道の駅クリスタルポルトが再開するため、少しずつ明るい話題が出てきているのでしっかりと取り組んでいきたい。 　さらに、福江市街地の再開発が問題になっており、地権者の渥美フーズとしっ

	かりと対応していきたい。隣のＪＡの土地に、田原市が市民プールをつくる予定であるため、ＪＡ、田原市、渥美フーズ、渥美商工会がしっかりと密に連携をとりながら進めれば、さらなる発展が続くのではないか。
高崎委員	緻密で熱心さを感じた。私からは４点申し上げる。１点目は企業誘致について、２点目は農業について、３点目は宣伝力について、４点目は教育委員として申し上げたい。 企業誘致について。自然の宝庫である田原市において、エネルギーに関する企業誘致は強みである。そして、これが人口の増加につながっていくと考えている。大手企業が来ることで、豊川市の大型商業施設のようにいろいろな経済効果を生むと考える。 農業について。名古屋や東京でも田原や豊橋の特色ある野菜やお菓子をみることが多く、人気である。こうした多くの「強み」が田原にはあるので、ぜひ一緒になって盛り上げていただきたい。 宣伝力について。若い方の意見を取り入れ、宣伝費のかからないＳＮＳで上手に田原を取り上げてもらい、情報を発信してもらう。田原の価値を高めることにもつながるので、ぜひお願いしたい。 教育委員について。コロナ禍でオンライン化が進み、平等な教育が日本全国、世界中で受けることができる。これにより田原市が人材宝庫になると考える。ぜひ周りの大人達で、子どもが田原の財産となるように応援していってほしい。また、数年前に葉っぱアートのリトさんを田原市に呼んだが、今や東京でも取り上げられて有名になっている。田原が先陣を切っており、田原を有名にする機会は沢山あると思っている。 最後に、資料をパワーポイント等で作成して視覚的に訴えていただくと、次回からさらによい会になるのではないかと思う。
本田委員	地域コミュニティの立場から。連合会の中でも活性化していこうという話は出るが、一番のネックは若者の流出である。残った人達も意識が変化しており、世代交代が上手くいっていない。（資料３）17 ページのアンケートにもあるように、買い物や飲食ができる場があり、就労の場があれば、多くの者は残っていくのかと思う。豊川に大型商業施設ができて、若者達が沢山いる。毎日行ける場所があれば、近くに住みたいと思うのかもしれない。岡崎市は徳川家康効果だけでなく、人が集まって色々な人が住みだしている。理由の一つとしてはユーチューバーを岡崎市で雇い、色々なお店やお祭りをＳＮＳ等で紹介していき、集客がある。その発信力を上手く使っていけばいいのかと思っている。
山本顧問	全体の濃淡はあるにしても、網羅はされていると思う。各方面からいろんな意見が出たので、盛り込んでいない内容があれば今後考慮してほしい。
戸田会長	議題の意見交換は以上である。事務局においてはこれらの意見等を整理し、反映させてもらいたい。

４　その他

戸田会長	「その他」について、事務局から何かあるか。
事務局 （部長）	次回の審議会は令和５年８月 10 日木曜日の午前 10 時から、本日と同じ場所で開催予定。資料等については事前に送る。
戸田会長	本日は長時間にわたってご審議いただき感謝申し上げる。 以上をもって第３回田原市総合計画審議会を閉会する。

以上